

共分散構造分析を用いた対難民意識の検討—2022年1月調査データをもとに—  
Examining Attitudes Toward Refugees Using Structural Equation Modeling: Based on  
January 2022 Survey Data

埼玉大学大学院人文社会科学部 講師

大茂矢 由佳

Graduate School of Humanities and Social Sciences, Saitama University

Lecturer, Yuka Omoya

キーワード：難民、対難民意識、世論、共分散構造分析

本研究の目的は、日本人の対難民意識を規定する諸要因について検討することである。海外の難民研究において、ホスト市民の対難民意識を規定する要因に関する知見が蓄積されてきている。それらの研究のなかで、対難民意識に肯定的に作用する要因として、若年世代 (Murray & Marx, 2013; Plener et al., 2017)、高学歴 (Coninck et al., 2018) 高収入 (Millington, 2010; Arlt & Wolling, 2016; Plener et al., 2017)、リベラルな政治志向 (Arlt & Wolling, 2016) などが報告されている。難民との交流経験を有していることは、サンプル属性によってプラス/マイナス両方に作用し得ることも明らかとなっている (Mckay et al., 2012)。メディア利用との関連では、高級紙の購読や質の高いオンラインニュースの閲覧は、対難民意識にプラスの影響を有していることが報告されている (Coninck et al., 2018) ほか、ソーシャルメディアの利用頻度が高いほど、難民に対して否定的な態度をとる傾向も示されている (Arlt & Wolling, 2016)。

こうした豊富な研究成果の一方で、日本を事例とする研究は限定的である。こうした問題意識にもとづいて、本研究ではウェブアンケート調査の結果から、日本人の対難民意識を規定する要因を検討し、海外の知見との比較を試みる。本研究では対難民意識を①難民に対して抱いているイメージ (難民イメージ) と②難民の受入れに対する意識 (政策的態度) の2つの側面からとらえる。調査は2022年1月7～11日にかけて、株式会社クロス・マーケティングに委託して実施した。調査対象は同社の保有するモニターのなかから、20歳から69歳までの日本全国の男女とした。有効回収サンプルは2426であった。

調査データにもとづき、探索的因子分析、および共分散構造分析によるパス解析を行なった。従属変数は属性 (性別、年齢、婚姻状況)、ニュース関心、国際的接触 (海外滞在歴、外国人や難民との接点)、メディア利用 (新聞、ツイッター)、政治的志向性、難民に関する知識度である。

分析の結果、①難民イメージに影響を及ぼす要因として、ニュース関心 (.346)、国際的接触 (.163)、性別 (-.063)、政治的志向性 (.176) の4要因が確認された (括弧内はパス係数)。また、②政策的態度に影響を及ぼす要因としては、ニュース関心 (.465)、国際的接触

(.087)、ツイッター利用 (-.052)、政治的志向性 (.260) の 4 要因が確認された。以上より、日本人の対難民意識の主たる規定要因は、ニュース関心の高さ、国際的接触を有していること、リベラルな政治的志向性であることの 3 つであることが判明した。国際的接触については、Allport (1954) の接触仮説や Arlt & Wolling (2016) の知見が支持される結果となった。他方、年齢や性別、学歴、収入など、諸外国の先行研究で指摘されてきた要因は、日本を事例とする本研究においては確認されなかった。また、日常的なメディア利用による影響は限定的であり、Ball-Rokeach & DeFleur (1976) のメディア依存モデルの効果は小さいことが確認された。

本調査の実施から、すでに 2 年以上が経過している。その間、ロシア＝ウクライナ戦争などの多くの難民を発生させる政変が起き、難民に対する国内世論も高まりを見せている。今後、より新しい調査データを用いて分析することで、この 2 年間における日本人の対難民意識の変化を解明することが必要である。

#### 参考文献

- Allport, G. W. (1954). *The nature of prejudice*. Addison-Wesley.
- Arlt, D., & Wolling, J. (2016). The Refugees: Threatening or Beneficial? Exploring the Effects of Positive and Negative Attitudes and Communication on Hostile Media Perceptions. *Global Media Journal German Edition*, 6(1), 1–21.
- Ball-Rokeach, S. J., & DeFleur, M. L. (1976). A Dependency Model of Mass-Media Effects. *Communications Research*, 3(1), 3–21.
- Coninck, D. De, Matthijs, K., Debrael, M., Joris, W., Cock, R. De, & D’Haenens, L. (2018). The relationship between media use and public opinion on immigrants and refugees: A Belgian perspective. *Communications*, 43(3), 403–425.
- Mckay, F. H., Thomas, S. L., & Kneebone, S. (2012). “It Would be Okay If They Came through the Proper Channels”: Community Perceptions and Attitudes toward Asylum Seekers in Australia. *Journal of Refugee Studies*, 25(1), 113–133.
- Millington, G. (2010). Racism, Class Ethos and Place: The Value of Context in Narratives about Asylum-Seekers. *The Sociological Review*, 58(3), 361–380.
- Murray, K. E., & Marx, D. M. (2013). Attitudes Toward Unauthorized Immigrants, Authorized Immigrants, and Refugees. *Cultural Diversity & Ethnic Minority Psychology*, 19(3), 332–341.
- Plener, P. L., Groschwitz, R. C., Brähler, E., Sukale, T., & Fegert, J. M. (2017). Unaccompanied refugee minors in Germany: attitudes of the general population towards a vulnerable group. *European Child & Adolescent Psychiatry*, 26(6), 733–742.